

B. カミングス氏インタビュー

—— 私たちは北朝鮮とどう向き合うべきか

以下は、昨年（2016年）10月15日に立命館大学 OIC（大阪茨木キャンパス）で実施されたブルース・カミングス氏へのインタビューの記録である。カミングス氏は、戦後米国の朝鮮半島政策に対する批判的な視点から、解放直後から朝鮮戦争にいたる研究を80年代からリードしてきた研究者として知られている。いまでは古典的名著といえる『朝鮮戦争の起源 1～3』（鄭敬謨・林哲・加地永都訳、2012年に明石書店から完訳本が刊行されている）をはじめ、韓国・日本で多くの翻訳本が出版されている。

この度、講演会・シンポジウムなどでカミングス氏が韓国・日本を訪れたのを機に立命館大学にもお招きして、朝鮮半島情勢と周辺各国の対応についての見方や考え方についてうかがった。米国の北朝鮮政策との関連では、カミングス氏はおよそ3週間後に控えていた大統領選挙についてヒラリー・クリントンが勝利するとの予測を前提に発言されているが、内容的には、米国の北朝鮮への対応をめぐるカミングス教授の考え方を知るうえでは重要であると思われることから、あえてこれを掲載した。当日の参加者は、カミングス教授の招聘に尽力していただいた関西学院大学国際学部・李恩子教授、同志社大学大学院グローバル・スタディ研究科・秋林こずえ教授、立命館大学から君島東彦国際関係学部長、勝村誠コリア研究センター長、文京洙国際関係学部特任教授、さらに大学院生の関智焄氏（政策科学研究科）が参加した。翻訳は橋本量則氏（ロンドン大学東洋アフリカ研究院博士課程）にお願いした。

立命館大学コリア研究センター『コリア研究』編集委員会

1. 北朝鮮の現状について

Q：まずは、至ってベーシックな質問についてお考えを聞かせていただければと思います。一つは北朝鮮の現状についての見解をお聞かせ願えますか。今年北朝鮮は数度にわたる核実験を行い、また朝鮮労働党第7次大会を開催しました。これらを踏まえ、北朝鮮の現状についてお聞かせください。もう一つは、北朝鮮に対する米国の対応をどう思われますか。米国は大統領選挙を控え、いわゆるレームダック期間にあるわけですが、北朝鮮に対する米国の態度についてお考えを聞かせて下さい。

C：北朝鮮は、経済が完全に破綻していた1990年代後半に比べたらずいぶん安定していると思います。商品やサービスを行き渡らせるのに初めて市場原理に頼らざるを得なくなり、その結果、北朝鮮国内において経済の開放が進んでいます。これは世界に向けたものではなく、北朝鮮国内だけのことで、したがって、平壤には多くの市場ができ、中産階級も形成されつつあります。平壤の中産階級は

世界の主要都市の人々とそれほど変わらない生活を送っています。

彼らは集合住宅に住み、地下鉄で通勤します。平壤には新しい建物が多く建てられました。最近、北朝鮮の住民が韓国に亡命する脱北事件が複数あり、韓国政府はこれらの脱北を以て北朝鮮が崩壊寸前であると主張していますが、私には全くそうは思えません。脱北について言えば15年、20年前の方が深刻でした。金正恩は権力基盤を固めつつあると思われる。そして、彼らはかつてないほど自信に満ちているのではないのでしょうか。彼らは今、核抑止力を手にしていると信じているからです。世界中の人々は北朝鮮が核抑止力を持つなど恐ろしいことだと思うでしょうが、現実はというと、核抑止力の理論通り、敵対する双方が核兵器を持つと却って戦争は起きにくくなるのです。

私は8月に北朝鮮を訪問することになっていたのですが、全く理解できない理由でビザを取得できませんでした。もしかしたら米国による北朝鮮制裁と関係があったのかもしれませんが。米国は表向きは指導者の金正恩を制裁対象にしていますが、これと何か関係があったのかもしれませんが。だから、現在北朝鮮がどのような状況なのかご報告できないのです。しかしながら、現在私と本の執筆にあたっている友人が8月に北朝鮮を訪問してきました、多くの平壤市民の裕福な暮らしに驚かされたとのこと。農村部はまだとても貧しいのですが、人口のおよそ10パーセントに当たる平壤の人びとはかなりの生活を送っているそうです。彼は何度も平壤を訪問したことがあるのですが、今回初めて、電気や水道が止まるといったことを全く経験しなかったそうです。

以前は停電や断水はよくあることだったのです。したがって、正確な数字はわかりませんが、経済が1から2パーセント程度の成長率で成長しているのではないのでしょうか。中国との貿易はとても大きく、北朝鮮のほとんど全ての貿易に及びます。北朝鮮は石炭やレアアースなどを掘り出しては中国に輸出し、多くの収入を得ています。ですから、15年、20年前に比べはるかに裕福になっているのです。

5月(2016年)朝鮮労働党第7回大会が開催されましたが、これはとても重要なことです。前回の開催は1980年ですから。もっと頻繁に開催されるべきものですが、今回36年ぶりに開催されたわけです。この党大会の報告はとてもわかりやすく、いかに彼らが良くやっているか、多くが誇張されています。しかし、驚いたことに、金正恩による鋭い批判も含まれていました。批判というのは、しばしば新しい計画が立ち上がり、人びとは奮い立ち、1週間から2週間はよく働くが、それから後退し始め、あまり仕事をしなくなる、というものです。これは本当のことだと思いますが、金正恩自身がそう述べたということが大きな驚きなのです。他にも党に対する批判はありました。さらに、ハイテク技術への取り組みについてとりあげましたが、北朝鮮のハイテク技術は他の国々が思うよりも進んでいると思います。

彼らはソニーや米政府へのハッキングを実行することができ、ニューヨーク州のシラキュース大学でコンピューター技術者を何年もかけて養成してきています。ですから、目立たずあまり表には出てきませんが、北朝鮮には非常に優秀なコンピューターの専門家部門もしくは部隊があるのです。しかし、北朝鮮には大きな問題があります。電力供給が常にギリギリか、もしくは停電しているのが現状なのです。8月には深刻な洪水があり、およそ3万戸の家が壊されました。これに対しては国際的な支援が集まりました。清津チョンジンのような斜陽工業地帯の都市の問題に関しては打つ手がほとんどありません。米国のデトロイトに少し似ているようです。製鋼工場が動かないだけでなく、そこから人々が売れる物を拾い集め

るような状況です。つまり、抜け殻がただそこにあるだけのような状態なのです。私は清津を訪れたことはありませんが、デトロイトになら行ったことがあります。産業空洞化の悪夢のような状態です。北朝鮮は長い間これらの問題を抱えてきました。少なくとも 90 年代の始め頃からです。ですから私の印象では、今は北朝鮮は比較的安定してきており、崩壊することや指導部内での内紛はまずあり得ないでしょう。

北朝鮮の体制で私が絶対的な真実だと考えることの一つは、金一族がこの政権に唯一正統性を与えられる存在だということです。そのような正統性などないと考えられるかもしれませんが、実際、金日成を尊敬している韓国人さえいるのです。金日成は 10 年にわたって満州で軍国主義日本と戦ったのです。その抗日の伝統が金一族の正統性の一部を成しているのは事実なのです。金日成と彼の盟友のゲリラたちが 1948 年に政権を打ち立て、以来彼らの家族兄弟を全て権力に取り込んできたのです。

例えば、北朝鮮の現在のナンバー 3 は、満州で活躍した有名なゲリラ指導者の息子です。このように考えると、現体制が安定していることや、何故誰も金正恩の打倒や暗殺を考えもしないのかの説明がつくのです。金一族を倒してしまったら何も残らないからなのです。彼らが政権を倒すことを望まないなら、クーデターや政権の解体のようなことは考えられません。なぜなら彼らは金正恩を国王のように扱っており、これは事実上君主制と同様で、その君主の世襲こそがベルリンの壁崩壊後、ソ連が崩壊してもなお、北朝鮮が崩壊しなかった最たる理由の一つだからです。

Q：北朝鮮の学生を受け入れたというシラキユース大学のプログラムと北朝鮮との関係がわからないのですが。

C：シラキユース大学が北朝鮮の学生をコンピュータ・サイエンスのプログラムに招待したのです。おそらく 7、8 年前だったと思います。おそらく毎年 15 人、20 人ほどではないでしょうか。

Q：では、米政府が査証を発行しているということですか。

C：私もそのような報道を目にしたことは一度もありません。随分と内密に行われたのです。シラキユース大学の学部の同僚で北朝鮮の専門家がおりまして、私も彼から教えてもらったのです。ニューヨーク・タイムズでもそのような記事は見たことはありません。シラキユース大学はコンピュータ・サイエンスの基本を彼らに教え、国に返してきたのです。私の知っている限り、これまでに脱北はありません。そのプログラムは長年にわたるもので、いまでも、制裁などいろいろありながらも、続いています。

Q：学位取得のためのプログラムですか、それとも 1、2 年間の集中養成プログラムですか、わかりますか。

C：正確な詳細は知りませんが、学生たちは 1 年間を過ごすものと思われます。もしかしたら 2 年間かもしれないですね。

II. 米国の北朝鮮政策について

C: 二番目の質問に関してですが、米国の対北朝鮮政策は行き詰っていると思います。米国政府や大統領たちが長年にわたり試みてきたことは、全く成果を上げていません。制裁に関しては、米国は1950年代から北朝鮮に制裁を課してきたのです。1990年代からはもっと多くの制裁を北朝鮮に課していますが、実際これらが効果的とは思えません。

米国は目的を達成できないでいます。そして民主党政権も共和党政権も定期的に北朝鮮にうんざりしてしまい、核施設への先制攻撃を考えたりします。実際、ビル・クリントン大統領は1994年6月に先制攻撃を正式に許可しています。それで、ジミー・カーター元大統領がそれを防ぐために仲介に入らなければならなかったのです。その結果、北朝鮮政府は寧辺のプルトニウム施設を閉鎖し、それは8年間保たれました。

ジョージ・W・ブッシュのドクトリンは先制攻撃でした。北朝鮮もリストに載っており、イラクの次、2番目か3番目にありました。ブッシュ政権内にはイラク戦争がうまく行けば、次は北朝鮮を攻撃したいと考える人たちがいました。先月、ニューヨークの外交問題評議会がビクター・チャー (Victor Cha) を主筆もしくは著者に迎えて論文を発表しました。その中で、正確な言い回しは覚えていませんが、米国は軍事的に北朝鮮の政権を弱体化させ不安定化させることを考える必要があるかもしれないというようなことを述べています。これは明らかに武力行使をするという脅しです。

これには先制攻撃の考えが見え隠れしています。しかし、大抵ワシントンの人々はその考えから一歩退いてしまうのです。また朝鮮戦争が始まることを彼らは恐れているのです。北朝鮮は米国から攻撃されれば韓国を攻撃し、交戦状態を作り出すことが容易にできるのです。ですから、それは制裁がうまくいかなかった場合の第二の手段です。先制攻撃と政権転覆がうまくいかなかった場合、第三の手段は北朝鮮が崩壊するのを待つことです。人々は26年間、それを待ってきました。

ベルリンの壁が崩壊した時、私はよく覚えています。それは1989年の初秋でした。その年の12月にはルーマニアの反乱でチャウシェスクが処刑されました。ポーランドやチェコスロバキアが共産主義から離脱したことについて北朝鮮の人々は多くを語りませんが、ルーマニアが崩壊した時、北朝鮮のニュースは大騒ぎでこれを報じていました。彼らはルーマニアを彼ら同様ソ連の従者と見ていて、チャウシェスクは北朝鮮の指導者ととても緊密な関係にあると思っていましたから、ルーマニアの事件は彼らに影響を及ぼしました。

それで彼らは弱気になりました。そしてその2年後にソ連が崩壊したのです。私ですらそのとき、この先何が起こるかわかりませんでした。米国と韓国の北朝鮮に対する認識はソ連の傀儡ということでしたから。私は常にそれは違うと考えていましたが、歴史は人々の顔をぴしゃりと打って間違いを論ずることがありますから、だから私は果たして北朝鮮が崩壊するか否かを注視してきたのです。結局、北朝鮮は崩壊しませんでした。それでもなおクリントン政権は北朝鮮が崩壊することを前提にして多くの政策を立てていました。1995年、CIAは崩壊が近いうちに起こることを前提にしていたのです。当時ジョン・ドイッチ CIA 長官が議会で証言しています。彼は「もはや北朝鮮が崩壊するかどうかの問題ではなく、いつ崩壊するかの問題だ」と述べています。それに対して北朝鮮軍の最高司令官が48時間経たないう

ちにこう反応しました。「もはや朝鮮戦争がもう一度起こるかどうかの問題ではなく、いつ起こるかの問題だ」と。

ですから、米国の政策の大きな問題の一つは、民主党であろうと共和党であろうと、北朝鮮を核不拡散のレンズを通して見てしまうことなのです。私たちは北朝鮮が核兵器を持つことを許せないのです。米国は北朝鮮を核保有国と認めることはないでしょう。しかし、北朝鮮は問題を別のレンズで見ているのです。そのレンズとは朝鮮半島の紛争、朝鮮戦争、非武装地帯で何かが起きる日常的可能性、もしくは、2010年と2011年に黄海（西海）で発生したような事件の起こる可能性です。

北朝鮮の崩壊を待つという考えは米政府や韓国政府の中では今なお強いのです。私は韓国に行ってきたばかりですが、朴槿恵大統領や政府高官は最近の脱北を根拠に北朝鮮は今にも崩壊しそうであると考えているようでした。しかしまだ崩壊していません。そして、崩壊を待つ戦略、オバマ大統領にしてみれば戦略的忍耐とでもいいでしょうか、彼は2012年米国が最後に北朝鮮と直接協議した時から4年間も辛抱し続けているのですが、この戦略的忍耐とは北朝鮮がミサイルと核兵器を開発する一方で米国は何もしないで居ることを意味するのです。

北朝鮮の崩壊を待つことはうまく行きませんでした。私たちはこれまで崩壊の問題を注視してきました。しかしそれは北朝鮮も同様ののです。言い換えれば、彼らは韓国に吸収されるより、もしくは韓国や米国に占領されるよりむしろ戦うことを選ぶということです。彼らは戦うことを厭わないでしょう。実際、金正日総書記は数度にわたり、「我々は戦うつもりだ、そして世界を道連れにするつもりだ」と述べています。

とても恐ろしいことです。そして、第四の手段、最後の手段として米国は北朝鮮と直接協議に応じたのです。これを始めてから25年になります。実際、最初の高官級協議は1991年に、ジョージ・H. W. ブッシュ政権のもとで行われ、核開発問題について協議しました。当時ブッシュ大統領は米国の戦術核兵器を朝鮮半島から撤収し、北朝鮮はもちろんそれを大いに歓迎しました。これが1994年のプルトニウム施設凍結に関する協議や1990年代に行われたその他の協議の舞台装置ともなり、これはクリントン政権の終わりまで続きました。

多くのことが為されました。北朝鮮の中距離、長距離ミサイルを凍結もしくは買い取る交渉は、2000年の10月、11月にクリントン大統領が成し遂げたことでした。開城工業団地を開き、2000年6月には南北首脳会談も行われました。これらは大きな成果でした。結論として言えることは、1991年以来25年間以上、北朝鮮との関係でうまく行ったことと言えば直接対話しかないということです。

しかし今の米国の立場は、北朝鮮が非核化に同意するまでは直接対話には応じないというものです。これについて私が最後に言えることは、私の友人であるジョン・ミアシャイマー（John J. Mearsheimer）と私はたまに昼食を共にするのですが、彼が私に次のように聞いてきたことがありました。「北朝鮮が核兵器を放棄すると思うか」。私は「君がどう考えているのかの方が興味深いよ」と答えました。すると彼は言いました。「今までどんな国が核兵器を放棄しただろう。南アフリカは放棄したが、それは多数を占める黒人による政府に核兵器を持たせたくなかったからだ」と。彼はちょっと間違っています。ウクライナのような旧ソ連の共和国の幾つかは核兵器を放棄したからです。しかし、とにかく、私は北朝鮮が核兵器を放棄するとは思いません。したがって、北朝鮮が核弾頭を搭載したミサイルを用いて戦う能力

を持つ前に、彼らの計画を制限するよう米国は努めなくてはなりません。

Q：CIA の報告書に対する北朝鮮の反応について確認させてください。CIA が北朝鮮の崩壊を前提にしたことに対してすぐに北朝鮮が反応したのですか。

C：48 時間以内です。北朝鮮は英語と同じ言い回しをただけです。CIA 長官のジョン・ドイッチが議会で「もはや北朝鮮が崩壊するかどうかの問題ではなく、いつ崩壊するかの問題だ」と述べたのに対して、北朝鮮軍の司令官が「もはや朝鮮戦争がもう一度起こるかどうかの問題ではなく、いつ起こるかの問題だ」と言い返したのです。彼は、もし北朝鮮が崩壊すると考えているなら、あなたがたは第二次朝鮮戦争を戦うことになりまよと示唆するのに、同じ言い回しを使ったのです。

Q：それは脅しではないのですか。

C：いいえ、違います。全く違います。とても賢い言い方で言い返したのです。本当の意味は、「もしあなたがたが崩壊を争点にするならば、争点は新たな朝鮮戦争と同じですよ、もし私たちが気をつけなければ」ということです。しかし、ドイッチ長官のコメントが脅しでないように、それも脅しではありません。両方とも脅しではありませんでした。ただ、何が起きているのかの認識の大きな違いを示しているに過ぎませんでした。

Q：わかりました。おっしゃっていただいたことに関連してさらに二つの質問をさせて下さい。一つは確認ですが、私たち、もしくは米国は、北朝鮮が核保有国であると認め、北朝鮮と直接対話をしなければならないというのが、カミングス先生の見解の要点というふうに理解してよいということでしょうか。これが一つ目の質問です。二つ目の質問は、制裁はうまく行きませんでした、おそらくその要因は中国の立場にあると思われまます。中国は制裁に全く真剣ではありませんでした。ですから、もし中国が真剣になって北朝鮮に制裁を課せば、事態は違う展開をしていた可能性があると思います。しかし中国内でも対北朝鮮政策に関して多くの議論があるようです。中国と北朝鮮の関係について、カミングス先生の見解をお聞かせください。

C：今日の米国の立場は筋が通っていません。米国は北朝鮮を核保有国として決して認めないでしょうが、このことは米国の立場をますます筋の通らないものにするでしょう。たとえば、2020 年、私たちはまだ北朝鮮が核保有国であると認めることを拒否しているとします。しかし、北朝鮮は 20 から 30 の数の核弾頭を持ち、それを搭載できる大陸弾道弾も持っているでしょう。私はこれを類推で説明しようとしているのですが、そうですね、即座に類推するのはちょっと難しいですが、これは目の前の現実を受け入れることを拒否しているようなものです。

しかし、「核兵器を放棄する必要がある、さもなければ放棄すると約束する必要がある」と言わずに北朝鮮と直接協議する政治的手段はあります。1998 年、1999 年、クリントン大統領の対北朝鮮特使を務

めたウィリアム・ペリー元国務長官はまず、北朝鮮の核兵器は抑止力が目的であると認めています。記者の「誰を抑止するのか」との問いに、「それはもちろん米国を抑止するためだ」と答えています。

次に彼が認めていることは、北朝鮮の持っている核兵器を全て見つけられるという確証を得られることは決してないということです。北朝鮮は何千もの地下施設を持っているのです。北朝鮮軍の多くの施設、何千もの施設が地下にあるのです。しかし、私たちは彼らの計画を制限することができます。実際ペリー氏の現在の立場はここにあり、北朝鮮が核弾頭を持つ前、もしくは核弾頭を搭載したミサイルを20発持つ前に、彼らの計画を制限する機会をまだ私たちは持っているということです。

ですが、時間がなくなってきています。これは、国交を正常化することと引き換えに現在北朝鮮が進めている計画に制限をかけることになるでしょう。もしかしたら、北朝鮮が最終的に非核化すると約束を何らかの曖昧な形でもすることもありうるかもしれません。そのような曖昧な約束は、1993年か1994年に金日成の朝鮮半島を非核化したいという見解から成されたことはありました。北朝鮮はそれを引き合いに出して、遅かれ早かれ私たちは核兵器を放棄するだろうと言うこともできます。

オバマ大統領はこれを行うのに絶好の立場にいます。なぜなら、彼や民主党はこのことで代償を払うことがないからです。彼は大統領としては既にレームダックですし、高い確率でヒラリー・クリントン候補が3週間後の大統領選挙に勝利するでしょう。この大統領選挙と新大統領の就任式の間、オバマ大統領はこれを実行できるのです、多くの批判に晒されても。

現実的な見方をすれば、米国には北朝鮮と話し、彼らから何を引き出せるか見てみるのが求められているのです。実際、2012年の閏日2月29日、米国と北朝鮮は、北朝鮮がミサイル実験と核実験を停止して、最終的には非核化すると合意に署名しています。その合意に何が起きたのかは、私にはわかりません。北朝鮮が衛星を打ち上げ、オバマ政権は「それまで、合意は無効」と言ったのですから。何らかの誤解や行き違いがあったのです。しかし、金正恩が合意に至ったことは事実なのです。

ですから、直接対話を通じて、北朝鮮の完全なる非核化は無理でも、核開発に制限を設けることは可能だと思われます。何はともあれ彼らが抑止力を持っていると思うことは、安定化の一因です。それは彼らの置かれている状況を安定化せしめるのです。なぜなら、彼らは非常に不安を感じているからです。直接対話を実行に移すことは、政治的には難しいことですが、戦略的に考えれば現時点において実に正しいことだと思えます。

今週の初め、私はソウルで会議に出席していました。パネルには私の他に、北朝鮮との協議に関わった経験を持つクリストファー・ヒル（Christopher Hill）氏、そしてソビエト・ロシアの専門家としてクリントン政権で活躍し、現在ブルッキングス研究所所長のストロブ・タルボット氏でした。そこで私が今皆さんに話したことを発言したところ、ストロブ・タルボット（Strobe Talbott）氏はこう言いました。「この政権はグロテスクな政権だ。そんな政権と我々は関係正常化などできない。彼らは酷い人権侵害を行っており、我々が何とかしなければならぬ」と。ですから私はこう言ったのです。「フランクリン・ルーズベルトは1933年にソ連を承認しましたが、その時、スターリンは何百万もの富農を殺していました。また、リチャード・ニクソンが1971年に中国と国交を開いた時、文化大革命はまだ続いており、200万人が死亡しました。つまり、前提条件などなかったのです」と。

タルボット氏は何も言いませんでしたが、私には彼が何を考えているのかわかりました。それは、ソ

連は重要だった、中国は重要だった、しかし北朝鮮は重要ではない、ということです。しかし、彼はそのことを口にできませんでした。なぜなら、彼が用意してきた見解の中で、彼は「次の政権にとって北朝鮮は1番目か2番目に位置する問題」だと述べていたからです。北朝鮮は承認するほど重要な国ではないと考える一方で、北朝鮮問題はとても重要で1番目か2番目の問題であると言う。それは彼の論理の矛盾であり、驚かされました。

中国にとっては、米国が北朝鮮問題で話しを持ちかけてくるのは、おそらくこれで5度目だと思いますが、米国は中国に北朝鮮が良く振る舞うように掴まえておくように働きかけています。この考えは少なくとも15年前からあり、私は当時ラムズフェルド（Donald Rumsfeld）国防長官が中国と協力して北朝鮮を叩きたいとニューヨーク・タイムズに語ったのを読みました。北朝鮮を叩くのに中国と協力すると。それを読んで私は思わず笑ってしまいましたよ。だって、北朝鮮と中国の関係は80年前、金日成が満州で抗日ゲリラを展開していた頃まで遡り、金日成は中国共産党のメンバーとして10年間、党と共に戦っていたのです。したがって1994年に金日成が死去するまで中国とは個人的な関係を保っていました。私は中国が金正日を好んでいたとは思いません。父親のような関係は持っていませんでしたから。もちろん、金正恩も持っていません。しかし、中国には北朝鮮を好む強硬派が多くいるのです。胡錦濤国家主席でさえも2007年に、「北朝鮮経済は破綻しているが、政治的には、西側つまりアメリカの影響を中に入れぬ術を知っている」と裏では語っていました。

ですから、私には中国がどうにかして米国と一緒にあって北朝鮮を遮断するとは考えられないのです。その遮断こそが今求められているのですが。現在でも鴨緑江を渡って多くの貿易が行われており、私が読んだレポートによると、その川を渡るトラックなどの輸送量全体のうち、たった6%しか検査されていないということです。たった6%ですよ。それはもう事実上、検問のない国境ということです。ですから、これを遮断するのは非常に難しいのです。もしその国境を遮断できれば、事実上北朝鮮を封鎖することになるでしょうが、難しいでしょう。北朝鮮がどう出るでしょう。北朝鮮は、中国か韓国が大変困るような方法を見つけるでしょう。

もう1つの選択肢、これは上手くいくとは思えませんが、ドナルド・トランプは誰かと議論する時いつもこう言います。「私が当選したら、中国にこう言います。北朝鮮を締め付けろとね。それで問題は解決さ」。幸いにも彼は当選しそうにありませんが…。希望も込めて。

III. 国際社会における日本の地位と役割

Q：あなたは世界における日本の立場に注目してきましたが、その最新の見解をお聞かせください。確か1993年だと思いますが、日本の立場についての素晴らしい評価、分析をされました。現在については如何ですか。20年経ちましたが。

C：ええ、私は『Parallax Visions』（訳者注：日本語訳の出版はない模様。なお、出版年は1999年とデューク大学出版のウェブサイトには記載）という本に小論を寄せたのです。1997年に出版されたのですが、2002年に改訂されたと思います。私が述べたことは、1980年代、日本は21世紀の覇権国家になろう

と考えていたのではないかと、そして人々も日本を太平洋の世紀つまり 21 世紀のリーダーとして話していたのではないかとということです。

私のお気に入りの日本のメタファーは、飛んでいる雁の群れの中で先頭に行くのが日本というものです。日本が韓国、台湾、香港、中国、シンガポールを引き連れながら飛んでいるのです。しかし、1992 年、日本はたくさんの問題に直面しました。そして、日本が 21 世紀つまり太平洋の世紀のリーダーだという話題は、あっという間に消えてしまったのです。興味深いことでした。ですから後の小論で私は、日本はナンバー 1 よりもナンバー 2 でいることに満足するようになった、そして米国との同盟関係を続け、その同盟のネットワークの中で繁栄しようとするだろうと述べたのです。世界もしくは東アジアにおける覇権国家として、米国に取って代わるという自負を捨ててしまうだろう、と。これが一点です。もう一点は、世界中に展開している米軍基地の構造は今、ジョーゼフ・シュンペンターの帝国主義に関する主張の典型的な例でして、それはある政策や戦略によって始められるのですが、結局は先祖返りしてしまうのです。つまり目的が見えなくなっても、それは続いていくのです。共産主義とソ連を封じ込めるために作り上げられた米軍基地のシステム以上に、彼の主張を論証するものとして良いものはありません。ソ連は崩壊し、西側の共産主義は消えてしまいましたが、それにも拘らずその構造は続いていくのです。

ですから、日本にはまだ 5 万人の米軍がおり、韓国には 3 万人、ドイツ、英国、イタリア、スペインなどにも数万人が展開しています。それらは縮小されてきていますが、私が説明したそのシステムはいまだに世界における日本の地位に深く影響しているのが現実です。なぜなら日本は国防において独立していないのですから。韓国やドイツもそうです。ですから、それは権力の基本的構造を見る方法の、実に良い論証になると思うのです。日々の政治や、安倍首相が日本は普通の国になるのだとか、日本は憲法 9 条を削除するのだと発言したりすることを見るよりも、です。これらのことは全て新聞で大きく報道され、みんなが話題にしますが、しかし、誰が首相であろうと誰が米国大統領であろうと、そのシステム、その構造が細かく砕いてしまうのです。

このシステムのもう 1 つの側面なのですが、これは米国にとって都合の良いことに、人々がそれに注意を払わないことです。チャルマーズ・ジョンソン氏が私に語ったのですが、これは彼が 70 代の時だったと思いますが、彼はキャリアの初めからずっと日本の専門家だったのですが、沖縄で何が起きているのか全くわからない、とっていました。ですから、彼は沖縄を訪問したのです。そして米軍の空軍基地に海兵隊第 3 師団があること、沖縄の 20% が米軍基地で占められていることなどが分かって、唖然としたのです。

一般的に言って、ほとんどの米国人は世界中に 900 以上の米軍基地がある事実を知りません。だから日本やドイツのような同盟国であり経済的な競争相手でもある国々に制約を課しているシステムも知りません。これは世界史でも前例のないことです。そして、ミアシャイマー氏が提唱する、現実政治（リアルポリティーク）の勢力均衡などの活動の一切を阻害しているのです。人々は彼の主張を好みますが、現実には起きないのです。日本とドイツはそのようなことをしていません、戦後 71 年経った今日でも。私はその小論の中で何を言ったか全部は覚えていませんが、日米関係の基本構造の土台に関しては正しかったと思います。

IV. オバマ大統領のレガシーづくりと大統領選挙

Q：オバマ大統領や国連事務総長の潘基文氏、お二人とも、むしろレームダックだと何らかの行動を取る可能性にはなりませんか

C：私が思うに、これらの問題を潘基文とオバマの両方がレームダックの状態にある時に推し進めるのは良い考えです。米国についてですが、どのようにしてトランプ候補がこの16、17か月の間、全てを圧倒してきたか表現することは難しいです。ニュースを見ようとCNNをつけると、10回に9回はトランプ候補と彼の最新のひどい言動のことを報道しているのです。選挙が終わった時、安堵のため息が全米で一斉に聞かれることでしょう。そして人々は、この恥ずべき選挙戦、彼のような候補者が出ている選挙戦から現実の問題に戻ってくるでしょう。しかし、彼はツイッターで午前3時にツイートする術を持ち、彼のツイートは全て一日中ニュースで報道されるのです。

ですから、今オバマ大統領の頭には選挙以外のことはあまりないと思いますよ。彼と夫人はヒラリー・クリントン候補の応援に頻繁に行っています。しかし、選挙が終われば、2ヶ月ありますし、その間議会はほとんど動いていませんから。ただ、オバマ大統領のレガシー（政治的遺産）作りで最も重要なのが、キューバ、ビルマ、イラン、ラオスです。これらのけ者とされてきた国々との関係を正常化することです。もちろん、これら国々は世界とは関係を持ってきましたが、今度は米国とです。昨日ニュースで、キューバ産の葉巻が解禁されたのを見ました。私は葉巻を吸うので、嬉しいことです。これについて面白い話があります。ケネディ大統領は葉巻を吸っていたのですが、キューバに禁輸措置を発動する前、1000本のキューバ葉巻を注文していたのです。もちろん彼の個人的な葉巻入れに収まりました。

とにかく、オバマ大統領のレガシー作りは終始、のけ者国家をどうにかすることなのです。1期目の就任演説で、オバマ大統領は「もしそれらの国々が我々に向けている拳を解くならば、我々は手を差し伸べて握手するだろう」と述べていますし、約束を履行したわけです。長い時間がかかりましたが、彼は約束を遂げたのです。ですから、もしあなた方が北朝鮮を米国にとってのけ者国家にすることから始められれば、一石二鳥、しかもとても大きな成果が得られると思います。

二番目に、彼らの核やミサイル開発の動きを止めることです。私は実はオバマ大統領がこの問題に関心を持っているという確証は持っていないのです。なぜならオバマ大統領は長い間北朝鮮に関心を示してきませんでした。例外として、韓国にB2爆撃機を送って、それらは核兵器を搭載できると発表し、脅してみたりしたことはありましたが。しかし、いまだ彼はまじめな大統領でレガシー作りのことを考えています。1990年代後半にクリントン政権として北朝鮮と交渉にあたった人々、例えばウェンディ・シャーマン、このような多くの成果をもたらした人々とオバマ大統領は話していることを私は知っています。

ともあれ、大統領選挙のある3週間後に何が起こるかわかりませんが、すべての世論調査がヒラリー・クリントン候補の地滑りの完勝を示しているようです。また、上院が民主党の手に戻るのもほぼ間違いありません。そして共和党は今、下院まで民主党が過半数を占めるのではないかと心配しています。それはないと思いますけど。もしそうなったら、本当に信じられないことです。なぜなら共和党は確か59

議席の多数を擁しているからです。しかし、今私たちが見ているのは、ドナルド・トランプ候補が共和党を壊しているところなのです。

私はとても優れた風刺漫画を見ました。それは、ドナルド・トランプが火炎放射器を持っていて、家が燃えているのです。その家には共和党と書かれていて、ポール・ライアン氏が人々に叫んでいるのです。「わかった、やっぱりこの男には投票しないことにするよ」と。要するに、トランプ候補は私たちが思いもよらなかった方法で共和党をめっちゃくちやにすることができたのです。まあ、私は共和党员ではありませんから、共和党が負ければ誰にも負けないほど喜びますけどね。

それは、ヒラリー・クリントン候補が米国民からとりわけ多くの信任を得て政権の座に着き、共和党は大きく後退するという状況をもたらすわけです。彼らは戦略の完全なる見直し、いいえ、完全なる転換を迫られるでしょう。さもないと、長い間少数派政党に甘んじることになるでしょう。そのおかげで、オバマ大統領は北朝鮮と交渉をし、合意を得ることが可能なのです。民主党のヒラリー・クリントン候補の圧倒的な支持の多さから恩恵を得るというかたちで。

おそらく問題は二つですが、そのうちの一つ、世論の動向は全く心配いりません。キューバ問題と違い、北朝鮮問題は米国内で賛否が分かれるほどの支持層があるわけではありません。米国にはおそらく3人の北朝鮮支持者がいるだけです。反対派のほとんどはコリアン・コミュニティの人々でしょう。しかしそのコリアン・コミュニティも金大中大統領の時代から大きく様変わりしてきました。彼らは北朝鮮と対話し交渉することに前向きで、彼らの多くが北朝鮮を訪問してきました。ですから、かつてのような反共コミュニティではないのです。

それに、彼らは政治的な力を全く持っていませんので、問題ありません。コリアン系の下院議員が一人いますが、一般大衆は北朝鮮のことを何も知りません。支持層がありませんから。一般大衆は危機が起きた時だけ注目するので、問題にはなりません。問題は、次のクリントン政権でしょう。彼女は核不拡散という課題に全力で取り組むでしょう。彼女はウェンディ・シャーマンと相談を続けています。ウェンディ・シャーマンは私が出席したソウルでの会議に来ていましたね。彼女は軍事行動の可能性にさえ言及しました。北朝鮮の非核化のためにもし必要であればですが。その発言はニュースにもなりました。私の個人的な見解ですが、オバマ大統領はこの手段をとることでクリントン氏に大いに手を貸すことができるでしょう。皆の非難を一手に引き受けることで。

そしてクリントン氏が大統領に就任する時には状況は変わっています。彼女は先制攻撃のようなことを心配しなくて済むでしょう。この考え方から言えることは、オバマ大統領ができることは何かを為して、それと共に去るということです。右派の議員が不満で大いに騒ぎ立てるでしょうが、彼らの多くにとってそれが最後の仕事となるかもしれません。彼らは選挙で負けているでしょうからね。ですから、率直に言って何も起こらないとは思いますが、しかし事態を本当に打開するには正に理想的な好機であるとは言えるでしょう。

IV. 今後の日米関係、南北朝鮮関係

Q. 日米関係と韓国と北朝鮮の関係についてお聞かせ下さい。この両国の敵対関係が双方の政権を永く存続させてきたように見えます。特に米国の韓国政府に対する見方に興味があります。あなたが仰ったように、日本とドイツは米国政府のコントロール下にありますが、韓国政府は少し違う立場にいるように見えます。独自の立場の例としては、ロシアに対する経済制裁があるでしょう。クリミア半島の問題で韓国は独自に行動しました。完全なる米国のコントロール下にあるわけではないようですが。ご見解があればお聞かせください。

C: 私は日本とドイツが米国のコントロール下にあると言ったつもりはありません。それはもっと、背景的なことでして、米軍と安保条約と核の傘については皆が知っていますが、しかしそれが必ずしも全ての政策や日々の行動に影響するわけではありません。小泉首相は2度、金正日総書記を訪ねましたね。最初の訪朝はブッシュ政権に完全に反対されていました。しかしそれでも彼は訪朝を成し遂げました。私は当時論説を幾つか書きましたが、そこで述べたことは、戦後日本の首相が行った出発の中で、この出発はおそらく最も特筆すべきものであるということでした。

これは実に興味深い問題です。私は学生たちに米国は世界の覇権国家だと教えていますが、覇権とは一体何なのかと言うことです。米国はフィリピンと防衛条約を結んでいます。とても重要なものです。しかし今フィリピンの大統領は、オバマは地獄に落ちろと言っています。言い換えれば、米国が米軍を駐留させ防衛条約を結んでいる日本、ドイツ、韓国、イタリアのような国々と米国の間にははっきりとした境界線があり、その境界線の内側で彼らができることは多く、彼らは幅広く行動できるのです。

しかし、71年経った今でもこの構造は存在し、最終的には米軍基地が置かれているこれらの国々を抑えているのです。私は学生たちに言うのです。5万人の日本の自衛隊が米国にいると想像してごらんと。その保養所や娯楽施設もニューヨークの繁華街にあたりすると。私は妻がある研究所にいる時に一夏を南麻布で過ごしたことがあります。ちょうど通りを挟んだ向かいが大きなマンションの建物で、米軍のための保養・娯楽施設になっていました。毎日米軍関係者が出入りしていましたよ。とにかく、ご質問の中にあつた最初のポイントについて明らかにしたかったのです。

二つ目のポイントですが、金大中大統領と盧武鉉大統領は、他の歴代の韓国大統領よりも北朝鮮に対する関与政策を推し進め成功させました。開城工業団地、2000年そして2007年の南北首脳会談、これらの大きなことを成し遂げました。ところが李明博大統領が就任すると李政権はこれらとは逆の方向に舵を切ろうとしました。そして、2010年までに関係は酷く悪化し、天安沈没事件が発生します。北朝鮮により韓国海軍の哨戒艇天安が沈められ、多くの乗員が犠牲になりました。その後も1、2年は非常に緊張した状態が黄海では続きました。

しかし、現在、朴槿恵大統領はレームダック状態で、1年以内に選挙もあります。彼女は次の選挙には立候補できません。私が先週韓国を訪問したら、ちょうど選挙の空気が盛り上がっていましたよ。韓国の人々は常に選挙のことを話題にしていました。李明博大統領が当選した理由の一つは、韓国の人々が10年間続いた野党政権に飽き飽きしてしまい、かつて実行力のあつた与党に戻りたくなつたことに

あります。しかし今、9年経って、二人の進歩派の政治家が台頭してきたことに私は驚きません。彼らはソウル市長の朴元淳（パク・ウォンスン）氏と文在寅（ムン・ジェイン）氏です。

この二人の革新派政治家は来年の大統領選挙で当選する可能性があります。ですから、韓国の転換が期待できるかもしれません。韓国が太陽政策を止め、冷戦時代に逆戻りするかのようには振る舞い、その結果北朝鮮から何か得られましたか。もちろん北朝鮮にしてみたら、事件を起こし韓国を痛い目にあわせることができ喜んだのでしょけれど。しかし、そこから何が得られましたか。何もありません。核爆弾やミサイル、多くのトラブルが増えるだけで、絶対に何も得られないでしょう。しかし、最後に申し上げたいことは、誰が韓国大統領かは関係ありません、例えミッキーマウスでも、もしオバマ大統領が北朝鮮と関係を結びたいと考えれば、朴大統領が賛成しようがしまいが、それを進めるだけです。彼女は公式には賛成すると私は確信しています。彼女は米国が北朝鮮に対して行うことに拒否権を持っていません。それは度々証明されてきました。もし米国が北朝鮮と何かをすると決めれば、それは米国と北朝鮮の間の二国間の関係となります。もちろん、韓国に情報を与え、相談することは続けるでしょうが、それは米国が行うことへの拒否権とは全く意味合いが違います。ご質問ありがとうございました。

